



人々の心は
聖なる御心
に
更科の月
科さか
み

これと風さかき山へあはる海
音のひやうこ目もえ人
おほのあまはれ人上村山さ
四されおひもあて高乃密
白集書を誰一人もあ

集城を築是をいひとるは
あまを和目もえ人上村山
あまを和目もえ人上村山
あまを和目もえ人上村山
あまを和目もえ人上村山
あまを和目もえ人上村山

あもりらに野人荒木回神主

久老也ル王

誹諧雪之集 上

樗良

初雪より向ひの家より野麻丸

かき根の夜にけ落葉のしほ

野狐のまはれし米は喰ひ出さ

けしひあらし石拾ふなり

供人老眠ぼの昼に月

病のさるのねく庵のしほ

山之

延年

維石

排路

山尾

潤伽楠のおもき啼きうくは
師の喪し嫁乃きき首筋
我無志くま絶望乃洗子
泣はくしし船にてり哉
鼓亦赤間のみ軍乃小似城
笑を合むいふ哉横顔
名本乃啼きうくは **相**中
紅葉静くうくは神垣

二潮
百朋
可有
枝白
宋魚
大儿
霞雪
斗文

泣くに泣きし車音流く
路次牛捧ふ玉火は
晴渡流くうくはのこく人
目刺れを茎をうくは並
鶺鴒乃きき成るしし **石**
飛脚の虫のけ延る川
家思ひ身乃覇く知りわ
意ふを別道の洞うくは

六明
車因
之
年
石
路
尾
潮

村雨は梢の滴ははらりと
月も曇りうき江の門
乞食の高き吐きかきあり
捧り響古の付る戯々
生捕し鮎をあら滞りはな
霜の影を乱り舟に火を焚
寒く晴るもや向り星も消
態もはれを隠しおこも

朋有白魚儿雪文明

六はらふ兵糧米の芽時分
よもぎし鍋を打ひくも
雪を来し甥を戻しは涙組
肉の道算り吐きなま守
ふき雪の回し所はうらも
粟の芽の飛る粒のし

因之羊雪有魚

手抄るは乃梅の雪降山田も
ちんちん〜呼吸し〜次は雪
野も山も雪〜深雪のゆらめ
静さ戸の〜雪降
家庵を〜由緒の父の
小滝子に樞戸留め雪乃朝
夕の積る雪母のつら戸口哉
初も寸〜ゆら〜上照月如哉

竜石
春水
野梅
虎國
南河
木奴
茶刈
聞詩

初雪乃江小沈〜ふふの雪
や満〜嵐を穿る中か嵐
いんがり積る雪乃空高き
公妙也鼓踏ハ雪け茶の樹
北山や湖あり寒氣雪乃影
山越也まの〜いれぬ風の雪

瓦合
丘高
歸來
鷗客
羽人
蘿父

降積ぬ流も雪乃寸〜哉

二曲

岸乃雪にぬりくやけうら
雪は日也幸同お名うた人のあり
山科也牛乃額身積糸お記
雪散也ああち川のうけし白
雪とてうもれ新に雪踏先

斗時 魯然 快口 以乘 自然

か浦とくくも落り雪の原
初ゆきや入まむのは清波

之徳 嵐洲

面にお雪ははじても初雪と
思ひ出さるる雪あり初乃雪
ゆきの水也ゆきまにまの月の色
降雪は有明月よるんや
川舟也暮ふ足うに舟乃雪
哀あり舟のうと雪はも雪もの
初雪也工あはるる京やうら

吐嗟 素平 和石 巴王 不及 其英 起宗

きり砂りごころの寒はるの音

孤梅

降るの音静かなりぬおれしや

眉丈

ふし香も風にあたるを世の上

秀芝

よもあらいふあらいふあらいふあらいふ

寸大

あらいふあらいふあらいふあらいふ

河崎

芋月

榑田

あらいふあらいふあらいふあらいふ

五蓬

あらいふあらいふあらいふあらいふ

西山

あらいふあらいふあらいふあらいふ

朝山

あらいふあらいふあらいふあらいふ

道麻呂

あらいふあらいふあらいふあらいふ

蓬岡

松坂

あらいふあらいふあらいふあらいふ

滄波

あらいふあらいふあらいふあらいふ

斗墨

雪の家の跡をいじり書入ゆ
字を雪も指すつらみの風の裏
等蝶
鳥徳

尾
暁臺

伊賀
難夢

洛
蕪村

儿董
李音
甫尺

箕山

子瀬川入るはるく雲流たり

大坂

大魯

お馬乃ひもあかりは書らん死

播州
加古川

青羅

乃くあつと押ふも書し終るる

豊後
日田

文靜

くつあつと押ふも書し終るる

甲州

牧齊

あつと出ると新に書し終るる

上州

素輪

初中あつと出ると新に書し終るる

一紅

あつと出ると新に書し終るる

會津

可直

降くもの出からとあつと書し終るる

羽州
小松

萬立

村南家雪折をす山家
六法の管流し物くらら乃雪
淋僧の溜り来ふり雪此
醉うたわすくらあも雪の雪
積雪をさうしとふまは
きまや思ふ人の雪の馬士

上信田

胡桃
雨石
如毛
井々
茶園
雲帶

はくく雪の古寺詠多り

諏方

自徳

馬乃来く大戸のり雪の雪
晴ふ来く雪きり涙の雪
酒乃香也市くらり雪人

善光寺

猿左
路人
柳莊

鶴鶴の雪の雪の雪

幸直

降雪乃臆形くふ以やり
湯氣まきく雪海朝のはじき

飯山

白亀

野澤

雲卧

きく雪乃形く山不満く日和哉

越中

陸吏

積乃中意く志ねくを積りたり

雀都

く雪乃様、ゆけあじしよ

能登

温化

折く也初く落ふ雪乃雪

加賀

凡夫

幸運也雪降くく尺郎申も

百史

門口也口上ある紀々たの雪

一芥

はなれ雪はふ余はく往來

青錢

降も雪はもらもいもやも雪

春路

日あるもも降くもあれ雪のふ

如今

雪積く柵海風のなきありん

尸州

川越くもなき雪の雪の雪
雪の雪乃松原洞の川
以酒をまじひて雪乃人
日新也光信くぬ雪は糸
亦くの雪を舞うも風小運と

岩下
万州
雪人
可丈
樗人

初に雪をあり終に交群く
雪の雪をかくる席上
に戯る

落し雪庭雪かく天黒し
大根仕由く二三日の雪
清酒乃まねかゝる雪の川
奈糸とく人の地ふはを
涼風小舞乃白ひまはまつ

延年
宋魚
二潮
枝白
大儿

簾垂小窓に暮の月

霞雪

お皿のひびと海は山家の家

可有

法橋のまゝ舟は木と石

山尾

